

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-95	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	日探081-901	詳説日本史 改訂版		

1. 編修の基本方針

教育基本法第2条第1号「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」に留意した点

- * 「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」の各時代の歴史について、政治・外交・経済・社会・文化などの各分野を関連づけながら叙述し、「幅広い知識と教養を身に付け」ることができるよう留意した。
- * 各章の冒頭の導入文で「問い」をなげかけることによって各章の学習の目的を明確にした。また、本文などを読む際の着眼点となるような「Q(問い)」を所々に設けて深い理解や多角的な考察を促し、「真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う」ことができるように留意した。

教育基本法第2条第2号「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」に留意した点

- * 「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、生徒が主体的に興味をもって学習に取り組めるよう、取り上げる資料に留意した。
- * 生徒の興味・関心を引き出し、本文の理解を深めることができるような地図やグラフ・文字資料等を掲載した。とくに「読みといてみよう」では、資料から情報を読み取って考察し、これをもとに対話的な活動をおこなうことで、「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」ことができるように配慮した。
- * それぞれの時代において、政治の中心にあった人々だけではなく、さまざまな階層の人々の営みを多角的に取り上げ、「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第3号「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- * それぞれの時代における個人・集団の対立や協調、また、さまざまな差別や格差の問題とそれへの取組などについての叙述を通じ、「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力」を重んじる態度を養うことができるように留意した。
- * 各章のまとめでは、みずから主体的に考察し、表現することをうながすように配慮した。
- * 「現代日本の課題の探究」では、歴史的な経緯を踏まえて現代的な課題を理解し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に考える活動を通して「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第4号「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

*たび重なる戦争や、経済の発展に伴う環境問題、また、そうした問題に対する取組についての叙述から、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第5号「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

*世界と日本を関連づけて多角的に考察する歴史総合の学習をふまえ、諸外国との関係・交流の歴史を丁寧に説明し、国・地域の違いやその背景について気づくことができるように配慮した。

*さまざまな影響を受けながらはぐまれてきた日本の文化を取り上げることで、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度」を養うことができるように留意した。

*各時代で、対外的・国際的な問題を取り上げ、考察を促すことで、「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度」を養うことができるよう留意した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>第I部 原始・古代</p>	<p>*部の冒頭で、原始・古代の展開を世界の歴史と関連付けて概観し、年表も掲載した(第1号)。</p>	<p>p. 5</p>
<p>第1章 日本文化のあけぼの</p> <p>1 文化の始まり</p> <p>2 農耕社会の成立</p> <p>●歴史資料と原始・古代の展望</p> <p>①古代社会と海外との交流</p> <p>②木簡から古代国家を探る</p>	<p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p>	<p>p. 6～74</p>
<p>第2章 古墳とヤマト政権</p> <p>1 古墳文化の展開</p> <p>2 飛鳥の朝廷</p>	<p>*第1章では、地球環境の変化と人々の生活について記述し、それへの関心が高まるように留意した(第4号)。</p>	<p>p. 6～19</p>
<p>第3章 律令国家の形成</p> <p>1 律令国家への道</p> <p>2 平城京の時代</p> <p>3 律令国家の文化</p> <p>4 律令国家の変容</p>	<p>*「歴史資料と原始・古代の展望」では、みずから歴史資料を読みとって多角的に考察し、仮説を表現するための資料の例として、海外との交流を示す文字資料や、古代の木簡を取り上げた(第2号)。</p>	<p>p. 20～23</p>
<p>第4章 貴族政治の展開</p> <p>1 摂関政治</p> <p>2 国風文化</p> <p>3 地方政治の展開と武士</p>	<p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p>	<p>p. 34～36、49～54、58～61、65～69</p>

<p>第Ⅱ部 中世</p> <p>第5章 院政と武士の躍進</p> <p>1 院政の始まり</p> <p>2 院政と平氏政権</p> <p>●歴史資料と中世の展望 絵画から中世社会を探る</p> <p>第6章 武家政権の成立</p> <p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>2 武士の社会</p> <p>3 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>4 鎌倉文化</p> <p>第7章 武家社会の成長</p> <p>1 室町幕府の成立</p> <p>2 幕府の衰退と庶民の台頭</p> <p>3 室町文化</p> <p>4 戦国大名の登場</p>	<p>*部の冒頭で、中世の展開を世界の歴史と関連付けて概観し、年表も掲載した(第1号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p> <p>*第5章では、古代から中世への変化に留意してその転換を記述し、中世という時代への関心が高まるようにした(第1号)。</p> <p>*「歴史資料と中世の展望」では、みずから歴史資料を読みとって多角的に考察し、仮説を表現するための資料の例として、京都を描いた絵画を取り上げた(第2号)。</p> <p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p>	<p>p. 75</p> <p>p. 76～136</p> <p>p. 76～85</p> <p>p. 86～89</p> <p>p. 104～109、 125～132</p>
<p>第Ⅲ部 近世</p> <p>第8章 近世の幕開け</p> <p>1 織豊政権</p> <p>2 桃山文化</p> <p>●歴史資料と近世の展望 生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化</p> <p>第9章 幕藩体制の成立と展開</p> <p>1 幕藩体制の成立</p> <p>2 幕藩社会の構造</p> <p>3 幕政の安定</p> <p>4 経済の発展</p> <p>5 元禄文化</p>	<p>*部の冒頭で、近世の展開を世界の歴史と関連付けて概観し、年表も掲載した(第1号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p> <p>*第8章では、中世から近世への変化に留意してその転換を記述し、近世という時代への関心が高まるようにした(第1号)。</p> <p>*「歴史資料と近世の展望」では、みずから歴史資料を読みとって多角的に考察し、仮説を表現するための資料の例として、「生類憐みの令」を取り上げた(第2号)。</p>	<p>p. 137</p> <p>p. 138～218</p> <p>p. 138～149</p> <p>p. 150～153</p>

<p>第10章 幕藩体制の動揺</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 	<p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p>	<p>p. 146～149、 164～166、 187～191、 198～203、 213～218</p>
<p>第IV部 近代・現代</p> <p>第11章 近世から近代へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足 <p>●歴史資料と近代・現代の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> ①五箇条の誓文と国是 ②貿易の変遷からみる日本の近代・現代 <p>第12章 近代国家の成立</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 <p>第13章 近代国家の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 <p>第14章 近代の産業と生活</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化 <p>第15章 恐慌と第二次世界大戦</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦 <p>第16章 占領下の日本</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 	<p>*部の冒頭で、近代・現代の展開を世界の歴史と関連付けて概観し、年表も掲載した(第1号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p> <p>*第11章では、近世から近代への変化に留意してその転換を記述し、近代という時代への関心が高まるようにした(第1号)。</p> <p>*「歴史資料と近代・現代の展望」では、みずから歴史資料を読みとって多角的に考察し、仮説を表現するための資料の例として、「五箇条の誓文」と近代・現代の日本の貿易についてのグラフを取り上げた(第2号)。</p> <p>*近代国家の成立や選挙権に関する叙述、また社会運動・労働運動、戦後の民主化の記述の中で、権利や義務、平等についても関心が高まるように配慮した(第3号)。</p> <p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p> <p>*2度の世界大戦や国連、冷戦の記述の中で、国際社会の平和について関心が高まるように配慮した(第5号)。</p>	<p>p. 219</p> <p>p. 220～370</p> <p>p. 220～231</p> <p>p. 232～235</p> <p>p. 236～255、 275～278、 286～288、 328～333</p> <p>p. 288～299、 315～316、 337～338</p> <p>p. 268～275、 311～326、 339～340</p>

<p>第17章 高度成長の時代</p> <p>1 55年体制</p> <p>2 経済復興から高度経済成長へ</p>	<p>* 明治時代の産業革命や高度経済成長期の公害問題、SDGsについて触れるなど、生命の尊さや環境の保全の重要性にも配慮した(第4号)。</p>	<p>p. 287、351～352、p. 364</p>
<p>第18章 激動する世界と日本</p> <p>1 経済大国への道</p> <p>2 冷戦の終結と日本社会の変容</p>	<p>* 「現代日本の課題の探究」では、様々な災害と日本の歴史を取り上げ、自ら課題を設定し、取り組むための例示とした(第3号)。</p>	<p>p. 365～370</p>
<p>現代日本の課題の探究</p> <p>様々な災害と日本</p>		

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- * これまでの学習をさらに発展させられるように、中学校社会や歴史総合における学習をふまえた叙述となるように心掛けた。また、歴史総合の学習範囲とも重複する近代・現代については、構成・配列を工夫し、歴史総合における学習の成果を活用できるようにした。
- * 図版はできる限り大きく掲載した。また、地図・グラフ類の作成においては、色覚の個人差を問わず、多くの生徒に見やすいようにカラーユニバーサルデザインに配慮し、読み取りやすい表現方法での作図を心掛けた。
- * 本文やキャプションで使用した文字のフォントについては、文字のかたちがわかりやすく、読み間違いがおこりにくいユニバーサルデザインに対応した「UD 書体」を採用した。
- * インターネット上に教科書ポータルサイトを設け、教科書に掲載された史料の現代語訳、重要年代と事項を確認できる年表、文字資料や動画・画像など歴史資料の一覧、を参照できるようにして、より深い学びにつなげられるようにした。
- * 本文の理解を助けるために注を付した。また、参照ページを付して、時代をまたがる事項などについて参照できるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-95	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	日探 081-901	詳説日本史 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色① 充実した記述で、歴史的な見方・考え方を養う

- *各部の冒頭に部扉を設け、学習に入る前に「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」という各時代の特徴を簡潔に理解できるよう工夫した。また、部扉には略年表を設けて、時代の全体像がわかるよう配慮した。
- *本文叙述に関しては、歴史事象の背景や因果関係の説明を重視し、物事のつながり・関連性が理解できるようにした。歴史用語の羅列は避け、読みやすく、歴史の流れが捉えやすい叙述を心がけた。
- *日本文化の特色や形成過程が総合的に理解できるよう、文化史は時代背景と関連付けた叙述を重視した。
- *「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、文字資料や絵画資料、遺物、統計・グラフ資料など多様な史資料を活用し、歴史を捉える力を養えるようにした。
- *「現代日本の課題の探究」では、一例として「様々な災害と日本」を取り上げ、災害という課題から、歴史を考える視点を例示した。

特色② 様々な問いや資料で、歴史的な理解や考察を促す

- *学習時の手がかりとして、各章の導入文に章全体にわたる「問い」をなげかけ、各章の学習の目的を明確にした。また、章末にも学習者の活動を促すための「問い」を配置した。これについて、各部のはじめの章(1章・5章・8章・11章)の章末では、「時代を通観する問い」を立てる指針となるよう配慮した。そのほかの章の章末では、「事象の意味や意義、関係性などを考察する」ため、あるいは「諸事象の解釈や画期を表現する」ための問いを設けた。
- *章の途中にも、適宜、「Q(問い)」を配置し、学習者が歴史に関わる事象を結び付けながら、それらを概念的な知識として獲得して理解を深めるとともに、学習の過程において思考力、判断力、表現力等の育

成を図ることができるよう工夫した。

- *本文の理解を促す資料を多数掲載し、視覚的にも歴史を理解できるよう配慮した。
- *写真や文字資料、グラフなどに、適宜、「読みといてみよう」と題した資料を読み取るコーナーを設け、資料の内容を読み取ったり（解釈）、説明したり、論述したりする活動を通して、知識・理解を深め、思考力、判断力、表現力等をより一層育成できるようにした。

特色③ 他科目との連携

- *中学校での歴史の学習をふまえ、高等学校での学習ではそれをベースに、さらに幅広く、深く歴史の知識を身につけられるよう工夫した。
- *内容の全体にわたって、資料の読み取りなど歴史総合で学習した歴史の学び方を活用する一方で、歴史総合の学習範囲とも重複する「第Ⅳ部 近代・現代」については、歴史総合で扱えなかった内容や資料を多く取り入れ、歴史総合とは異なる視点で歴史を捉えることができるよう工夫した。
- *内容の全体にわたって、国際環境や地理的条件などと関連付けて叙述するとともに、地図を多く掲載し、地理的な見方・考え方の育成にもつながるよう配慮した。
- *とくに「第Ⅳ部 近代・現代」の記述では、人々の権利と義務、国際社会の対立と協調、地球環境の問題など、現在につながる歴史的事象を取り上げ、公民科との連携に配慮した。

そのほかの工夫

- *より深い学びを促すため、関連する動画や画像、文字資料を参照できるよう、適宜、2次元コードを配置した。重要な文字資料については、より詳しい読み取りができるよう資料の全文を閲覧することができるようにした。絵画資料については、全体図や紙面に掲載した以外の部分を閲覧することができるようにした。
- *表見返しには「古代の行政区画」、表見返し裏には「干支、時刻と方位、度量衡」、裏見返しには「政党・政派の変遷」を設け、学習の中で参照しやすくした。
- *巻末には、本書の内容に合致した詳細な巻末年表を付し、学習の便宜を図った。また、充実した索引を設け、学習の振り返りをおこないやすいようにした。
- *振り仮名や参照ページなどを充実させ、生徒が自主的かつ積極的に学習できるよう工夫した。
- *掲載した資料に、所蔵者・提供者がある場合には、紙面上に明示することで、身近なところに歴史資料があることに気付かせるとともに、地域の資料から歴史を考えられるよう工夫した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
<p>第Ⅰ部 原始・古代</p> <p>第1章 日本文化のあけぼの</p> <p>1 文化の始まり</p> <p>2 農耕社会の成立</p> <p>●歴史資料と原始・古代の展望</p> <p>①古代社会と海外との交流</p> <p>②木簡から古代国家を探る</p> <p>第2章 古墳とヤマト政権</p> <p>1 古墳文化の展開</p> <p>2 飛鳥の朝廷</p> <p>第3章 律令国家の形成</p> <p>1 律令国家への道</p> <p>2 平城京の時代</p> <p>3 律令国家の文化</p> <p>4 律令国家の変容</p> <p>第4章 貴族政治の展開</p> <p>1 摂関政治</p> <p>2 国風文化</p> <p>3 地方政治の展開と武士</p>	<p>A 原始・古代の日本と東アジア</p> <p>(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と原始・古代の展望</p> <p>(3) 古代の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)</p>	<p>(p. 5～74)</p> <p>p. 6～19</p> <p>p. 20～23</p> <p>p. 24～36</p> <p>p. 37～61</p> <p>p. 62～74</p>	<p>4</p> <p>2</p> <p>4</p> <p>6</p> <p>4</p>
<p>第Ⅱ部 中世</p> <p>第5章 院政と武士の躍進</p> <p>1 院政の始まり</p> <p>2 院政と平氏政権</p> <p>●歴史資料と中世の展望</p> <p>絵画から中世社会を探る</p> <p>第6章 武家政権の成立</p> <p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>2 武士の社会</p> <p>3 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>4 鎌倉文化</p> <p>第7章 武家社会の成長</p>	<p>B 中世の日本と世界</p> <p>(1) 中世への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と中世の展望</p> <p>(3) 中世の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)</p>	<p>(p. 75～136)</p> <p>p. 76～85</p> <p>p. 86～89</p> <p>p. 90～109</p> <p>p. 110～136</p>	<p>3</p> <p>2</p> <p>6</p> <p>7</p>

<ul style="list-style-type: none"> 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場 			
<p>第Ⅲ部 近世</p> <p>第8章 近世の幕開け</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 織豊政権 2 桃山文化 <p>●歴史資料と近世の展望 生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化</p> <p>第9章 幕藩体制の成立と展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化 <p>第10章 幕藩体制の動揺</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 	<p>C 近世の日本と世界</p> <p>(1) 近世への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と近世の展望</p> <p>(3) 近世の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)</p>	<p>(p. 137～218)</p> <p>p. 138～149</p> <p>p. 150～153</p> <p>p. 154～191</p> <p>p. 192～218</p>	<p>3</p> <p>2</p> <p>11</p> <p>8</p>
<p>第Ⅳ部 近代・現代</p> <p>第11章 近世から近代へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足 <p>●歴史資料と近代・現代の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ①五箇条の誓文と国是 ②貿易の変遷からみる日本の近代・現代 	<p>D 近現代の地域・日本と世界</p> <p>(1) 近代への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と近代の展望</p>	<p>(p. 219～370)</p> <p>p. 220～p. 231</p> <p>p. 232～235</p>	<p>3</p> <p>2</p>

第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	(3) 近現代の地域・日本と世界の 画期と構造	p. 236～255	5	
第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制		p. 256～278	6	
第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化		p. 279～299	6	
第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦		p. 300～324	7	
第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和		p. 325～338	4	
第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ		p. 339～352	4	
第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容		p. 353～364	3	
現代日本の課題の探究 様々な災害と日本		(4) 現代の日本の課題の探究	p. 365～370	2
予備				1
			計	105